

## 第100回役員会議事要録

日時：平成30年2月23日(金)14:00～

会場：大学本館E-703会議室

出席者：津田理事長、松尾副理事長、清田理事、片山理事、梶原理事、田上理事  
(オブザーバー) 中野監事、福田監事、二宮副学長、中尾副学長

### 議案

- 1 地方独立行政法人法改正に伴う業務方法書変更について
- 報告
- 1 教員の採用について
  - 2 平成29年度北九州市立大学職員係長級採用試験結果について
  - 3 平成30年度一般選抜入学試験志願者数について

### 議案1 地方独立行政法人法改正に伴う業務方法書変更について

<質疑応答>

[理事長]

○細則の追加について、スケジュールはどのようになっているか。

[理事]

○今回承認いただいたのち、市に認可申請を行い4月1日に認可されるよう調整中である。  
その後、細則については、半年を目途に詰めて規程を整備していきたいと考えている。

[理事]

○今までは、同じようなガバナンスやコンプライアンスの問題が起きた時に、その都度対応していたのか。今回、整備されることで所管する部局などが整理、明文化されるということか。

[理事]

○ほとんどの部分は、内容が規定されているものである。業務方法書施行後に発生する対応事項にまとめた部分について、規程の整備等を行う。例えば、理事の分掌については、今まで規定していなかったもので、新たに整備することになる。

[理事]

○全体を統括している窓口は無かったが、各所管で行っていたということか。

[理事]

○業務方法書は、総務課で取りまとめをしているが、項目ごとに所管が決まっており、各所管で対応しているところである。

[監事]

○内部統制システムの関係で規程の中に統括する役員というのが出てくるが、具体的に4月1日から特定しておかなくていいのか。

[理事]

○内部統制システムについては、新たに整備する必要があるため、その整備の上で特定することになる。

[監事]

○内部統制システムやそれを踏まえた対応についての統括する人を決め、進捗状況を管理するなどしないと大変ではないか。

[理事]

○他大学でも、時間をかけて整備するという話も聞いている。

[理事]

○CFO や CIO が出来たりしたのと同じように、人間を増やす余裕はないが業務が増えていくので、予め所管を明記する方がよいと思うが、そのようなイメージはあるか。

[理事]

○通常業務の中である程度役割が分かれているので、それを規程に書き起こしていくイメージである。

[理事長]

○基本的に現在の体制の中に内部統制を行う仕組みはあって動いているが、今回、業務方法書を整備して明記するという理解だがそれでよいか。

[理事]

○ほとんどの部分は既に取り組んでいるところであるが、統括組織の責任者等は書類上明示していないので、明示していくということである。

[副理事長]

○大学のコンプライアンスの確保は、それぞれについてどこで行うかという明記はしているが、それを総括する組織等が明文化されていない状況である。

[理事長]

○実質的に回しているところはあるが、全体的に見たときの形を整備しようということか。

[監事]

○規程を整備した後の姿も大事だが、整備の進め方の体制もまず作って、なるべく早く整備しないと、実態が伴わないものになってしまう。

[理事]

○できるだけ速やかに調整したい。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

## 報告1 教員の採用について

<質疑応答>

[理事]

○倍率はどの程度か。

[事務局]

○手元に数字がないので、後日ご報告する。

[理事]

○欠員補充ということだが、総員の枠に対し、在籍している教員がどの分野でどのようなキャリアを積んだのかというマップや年齢の分布があって、トータルの強化分野に対して必要な人数として6名を公募して採用したという理解でよいのか。

[副学長]

○今回は、ほとんどが定年退職による欠員で、担当していた分野の教員を補充するということになるが、その時々のカリキュラムの変更などがあるので、全く同じ分野の教員を採用するということではない。教員採用の際は、私のところに各学部からこういう分野の教員を補充したいという申請があり、組織人事委員会で全学的な部分を検討した上で判断している。

報告2 平成29年度北九州市立大学職員係長級採用試験結果について

<質疑応答>

[理事]

○年次計画はどのようになっているのか。何年間くらいで、市の要望に応えるのか。

[事務局]

○市の職員19名を短期間に切り替えるのは難しいと考えている。プロパー職員は40名おり、昇任試験を実施しているが、経験年数などの要件を満たしている人員がまだ少なく、内部からの引き上げも難しい状況であるため、中期的に時間が必要と考えている。具体的な予定は立てていないが、市の方と協議しながら切り替えていきたい。

[理事]

○ある程度のビジョンを明確にしておかないと難しいのではないか。

[事務局]

○平成17年度に独法化され、当初市派遣職員は70名程度だったが、順次プロパー職員を採用していき、現在40名がプロパー職員に切り替わったところである。この10年間は、役職者ではなく、職員をプロパーに切り替えている。今後は、係長級以上の19名をプロパーにしていくという方向であるが、即戦力となる人員を今回初めて採用することになった。順次市と協議しながら、役職者のマネジメント能力なども見ていかないと難しい部分があるので、それを見ながら行っていきたいと思っている。

[理事]

○例えば19名のうち、10年で内部から10人を昇格させたいと計画しているが、それでも足りないので、外部から9名を2名ずつ採用していくというようなビジョンは、あったほうが良い。内部のプロパー職員のモチベーションが下げないためにも、そういうものが必要だろう。

報告3 平成30年度一般選抜入学試験志願者数について

<質疑応答>

なし